

戦後日本の社会思想史 近代化と「市民社会」の変遷

小野寺 研太 著

四六判 上製カバー装 352頁 本体価格:3,400円 (定価:3,672円)

— 自由な市民がどのように社会と折り合いをつけて生きるか？ —

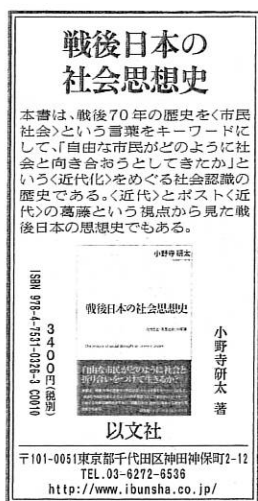
新進気鋭の書き下ろし！

本書は、戦後70年の歴史を「市民社会」という言葉をキーワードにして、「自由な市民社会が社会とどのように向き合おうとして来たか」というテーマをめぐる社会認識の歴史です。

戦後日本の「近代化」をめぐる壮大の思想史として読むことができます。

戦後70年の思想を読む

朝日新聞広告より



【目次】

序

- 第一章 戦中の市民社会概念 — 統制経済論と生産力論
 - 第二章 「人民」の水平的紺帯 — 戦後初期の内田義彦
 - 第三章 戦後社会の文化変容と市民社会論 — 六〇年代の内田義彦
 - 第四章 「自治」のリアリズム — 松下圭一の思想遍歴
 - 第五章 二つの正統派批判 — 市民社会論的社会主義
 - 第六章 「市民社会」とユートピア — 見田宗介／真木悠介の社会理論
- 結び

人民とはなにか？

A・バディウ／P・ブルデュー／J・バトラー／G・Dーユベルマン
S・キアリ／J・ランシエール 著

市川崇 訳

四六判 上製カバー装 228頁 本体価格:2,400円 (定価:2,592円)

【目次】

- 「人民」という語の使用に関する二四の覚書き—A・バディウ
 - 「大衆的(人民の)」と言ったのですか？—P・ブルデュー
 - われわれ人民—集会の自由についての考察—J・バトラー
 - 可換的にする—G・Dーユベルマン
 - 人民と第三の人民—S・キアリ
 - 不在のポピュリズム—J・ランシエール
- 解題 市川崇

「シャルリー・エブド」事件や「イスラム国」などの国際テロリズムは、湾岸戦争以来のアメリカの拡張的な世界戦略の結果によることが次第にはっきりしてきました。この新自由主義的グローバリズムは、世界大の貧富の格差を拡大する不安定要因であります。

本書は、こうした世界戦略に抗する革新的主体としての「人民」概念を洗い直し、その再興を促す、世界的に著名な6名の思想家による論集です。

※既刊関連書：『民主主義は、いま？』 本体価格:2,500円＋税

番線	冊数	
	冊	以文社 ISBN 978-4-7531-0326-3 C0010 本体価格:3,400円＋税 戦後日本の社会思想史 近代化と「市民社会」の変遷 小野寺研太 著
	冊	以文社 ISBN 978-4-7531-0325-6 C0010 本体価格:2,400円＋税 人民とはなにか？ アラン・バディウ、ジュディス・バトラー、他 著 市川崇 訳
	冊	

※上記の書籍は注文書籍となります。(FAXまたは電話にてご返信お願い致します。)

FAX:03-6272-6538

TEL:03-6272-6536

http://www.ibunsha.co.jp/

101-0051 東京都千代田区神田神保町2-12 株式会社 以文社